

女性消化器外科医紹介

青森厚生病院外科

赤坂 治枝
Harue Akasaka

略 歴

2004年3月 弘前大学医学部卒業
2004年4月 青森県立中央病院研修医
2006年～ 弘前大学医学部消化器外科関連病院外科ローテーション
2013年10月 弘前大学医学部消化器外科助教、上部消化管グループスタッフ
2016年4月 青森厚生病院外科
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医



✳消化器外科医を目指した理由

端的にいうとやりたいと思ったから、というのが理由です。医学部6年生の学生実習を終え自分の将来進む道を考えたとき、消化器外科をやりたいという思いがありました。なりたい医師像として全身を診ることができる医師であったことを覚えています。それができるのは消化器外科だけではありませんが、手術という技術をもって診療したいと思ったこと、消化器外科の実習で一緒に働いてみたいと思う魅力的な先生と出会ったこと、また消化器外科で働く女性医師と出会ったことが科を選択する際に影響しました。とくに女性外科医に出会ったことの影響は大きく、それがなければ消化器外科に興味をもっても、この道を選ぶことはなかったと思います。女性が消化器外科を選ぶことには否定的な意見もありましたし、自分でもプライベートとの両立が可能かどうか分からないままでしたが、やりたいと思ったことを優先してこの世界を選びました。

卒後9年目で大学の助教となり、以前より興味があった上部消化管グループのスタッフとして働くチャンスがいただきました。診療のみならず教育や研究などさまざまな責任のある仕事を経験し、食道癌、胃癌の診療に深く携わることができました。女性医師としてより、一医師として扱ってもらえることに本当に感謝しながら日々の診療にあたっています。

✳男性消化器外科医に期待すること

性別に関係なく、皆が働きやすい環境が普通になればいいなと思っています。

働きやすい環境とは何か、人によって価値観が違うので一概にはいえないと思います。私の場合は周りのサポートがあって育児しながらも働くことができていますが、フルタイム勤務できる環境においてもらって

いることにとても感謝しています。やりたいと思った仕事に従事できることが、私の働きやすい環境なのだと思います。

今は社会の仕組みも背景にあって、女性をターゲットにした環境の整備が優先されています。大変ありがたいことですが、これから先は性別に関係なく皆がプライベートも重視できる環境ができてきたら、さらに働きやすいのではないかと考えています。

✳消化器外科医を続けていくために一番必要なこと

楽しく仕事をする、そういった環境を自ら作るのだと思います。楽しくといっても、楽をするという意味ではありません。楽しく仕事をするためには、まず患者さんに喜ばれる仕事をしなければなりません。また仕事とプライベート双方で周囲と良好な関係を築かなければなりません。そのために日々学ぶことが必要ですし、責任ある仕事をし、周囲と十分にコミュニケーションをとって信頼関係を作る必要があります。自分の努力が必要ですし、すべてにおいて可能なことでもありませんが、そうして仕事を楽しく行えることが、仕事を継続するうえで大切なことだと思っています。

✳後輩・女子医学生へのコメント

消化器外科医の仕事は大変で、プライベートとの両立も簡単ではありません。私自身一人前には程遠く、なるべくそれに近づけるよう勉強の日々ですが、その時間を捻出するにも苦労します。それでも自分で興味をもって選んだ仕事ですし、やりがいをもって続けることができおり、この道を選んだことを後悔していません。消化器外科に限らず医師の仕事に楽な仕事はありませんので、ぜひやりたい仕事を選んでほしいと思います。